

# かけはし vol.84

宇治武田病院  
令和5年11月発行



特集

## 腎臓病治療、そして腎代替療法 患者さんの視点に立ち、「何が一番良いか」を追求

宇治武田病院 地域医療連携室

[ホームページはこちら▶](#)

TEL: 0774-25-2062 (直通)

月曜日～金曜日/8:30～17:00

FAX: 0774-25-2660 (直通)

土曜日/8:30～12:45

※日曜日・祝日・年末年始はお休みさせていただきます。



理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R(減らす、再利用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進



## 特集 腎臓内科

# 地域の先生方、他科・多職種連携を進め 「患者さんにとってのベスト」を追求します

慢性腎臓病（CKD）の患者数は 1,330 万人、およそ成人の 8 人に 1 人とされています。これに対する腎臓専門医は 6,201 人、京都府では 184 人（2023 年 7 月 3 日現在・日本腎臓学会）という状況です。高齢化などで CKD 患者は増加し、特に糖尿病性腎症及び高血圧性腎硬化症による透析の予防が喫緊の課題とされています。腎臓病治療、そして透析予防でポイントとなるのは薬物療法だけでなく「食事療法」、さらに「運動療法」と言えます。当院腎臓内科では、患者さんの視点に立ち、「何が一番良いか」を追求しています。

腎臓内科 部長 戸田 晋

## サルコペニアや認知症など 他の病態も考慮した総合的治療

私は京都南部の数少ない腎臓専門医および透析専門医として、2012 年 4 月から当院で診療しています。腎炎・ネフローゼ症候群、腎不全、高血圧性腎障害、糖尿病性腎症などの腎疾患、膠原病性腎症・血管炎症候群など、腎臓に関するすべての疾患を対象とし、透析などの腎代替療法まで全般にわたって診断・治療を行っています。

この間、最も感じているのは患者さんの高齢化です。全国的な動きと同様、当院のある宇治市も高齢化が進行し、65 歳以上の人口は 29.4%、75 歳以上も 14.9% となっています（2021 年 10 月宇治市統計）。高齢の患者さんの治療は、「腎臓だけを診ていれば良い」といったスタンスでは様々な問題につながりかねません。サルコペニアや認知症など他の病態を考慮した総合的な治療を行うことが、より重要となってきます。とくに腎臓疾患は、脳卒中や心臓病など心血管系合併症のリスクも高

くなるため、全身管理が必要です。他の診療科の先生と連携し、より良い治療環境となるよう努力しています。

地域の先生方におかれましては、「腎臓に問題がありそう」だと感じたら、一度、ご紹介いただければと思います。ご紹介元の先生と併診していただくことを基本としており、ある程度以上、腎機能障害が進行した場合は、透析、移植など腎代替療法への移行をご提案しています。腎保護だけでなく、お薬の調整（投与量、投与間隔、一部の薬剤の中止）等もございますので、紹介元の先生に無理なご負





担をかけることのないよう、ある程度以上、腎機能障害が進行した場合は、当科で一括管理させていただきます。

腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植、CKM(保存的腎管理))を選択するのは、患者さんにとって大きな決断です。透析に伴うご不便さや効果をこの段階ではご実感いただけていませんので、腹膜透析から血液透析に移行するケースや併用療法、血液透析のみを最初から行う場合など、それぞれのメリット・デメリットについて、できるだけイメージできるよう詳細にご説明しています。

透析治療においても高齢化が大きな課題となっています。2021 年末の透析導入平均年齢は 69.67 歳(日本透析医学会統計調査)となっており、今日では 80 代、90 代での透析導入も珍しくありません。

ん。全身状態、生活等を踏まえ、患者さんにとってベストな療のご提案をさせていただきます。

尚、当院では腎生検、血液透析のためのシャント造設を紹介先医療機関で実施いただき、当院で透析治療を行っています。腎移植につきましても、この 11 年半で府内医療機関に 14 例を紹介・実施しています。

また当院では透析時運動指導等加算を算定しており、必要な研修を受講した医師、セラピスト、(医師の指示を受け必要な研修を受けた)看護師が運動指導を行い、透析患者さんの予後・QOL の向上に努めています。

月曜・木曜の午後に完全予約制で外来を行っておりますので、当院地域医療連携室へご連絡頂けると幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



## 広大な最上階の透析センターに最新設備を積極的に導入

当院の透析センター(50床)は見晴らしの良い最上階フロアにあり、透析室(50床)、待合、談話室とも広く落ち着ける療養環境づくりを行っています。

設備面ではクリーンな透析液を供給する水処理システムを導入しオンライン HDF を可能とし、全自動コンソール(GC-110N)を採用しています。

また専用送迎車を複数台用意しており、ご自宅までの送迎\*を行うことで、透析を利用される患者さん・ご家族の負担軽減を図っています。



※透析送迎は独歩の方対象です。(準備やベッドの移乗を1人で可能な方。)

小児アレルギー専門外来

小児アレルギー専門の外来を開設

分子標的薬など最新の治療を実施

小児科 白井 千晶



増加傾向にある、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息など小児アレルギー疾患全般を診療しています。

重症・難治性のアトピー性皮膚炎は外用剤とスキンケアを基本とし、追加治療で分子標的薬を導入し実績を上げています。気管支喘息では重症例等に分子標的薬を導入し、発達・発育途上の小児の特性を考慮した個別治療を行っています。ただしこれら新しい薬剤は事前検査、適用に細心の注意が必要です。

食物アレルギーはご家庭での食事指導に加え、園や学校での給食や課外授業の食事に対し診断書を作成。アドレナリン自己注射液（<sup>®</sup> エピペン）の処方・指導も可能です。経口負荷試験は京都府立

医大と連携し実施しています。

アレルギー性鼻炎に対しては、アレルギーマーチの予防・軽症化で注目される舌下免疫療法も行っています。

これら治療費は京都子育て支援医療助成制度をご紹介します。地域の先生方におかれましては、アレルギー疾患の小児患者さんをご紹介いただけましたら幸いです。

### 小児アレルギー外来

**完全予約制** 毎週 金曜：午後

食物アレルギー・小児気管支喘息・アトピー性皮膚炎  
その他のアレルギー疾患全般

地域医療連携室から

より良い入退院支援となるよう

事業所間の連携・協働を促進

地域医療連携室では患者さんのご負担軽減に向け、入退院支援をさらにスムーズにする取り組みを行っています。その代表の一つが、月例で開催している当グループ・福祉介護各事業所（宇治圏域内）との連携支援会議です。10月には「退院に向けどのような支援や職種間の連携が可能か」をテーマとした他職種グループワークを行いました。有益な情報交換の場となったのはもちろん、現場で患者さん・利用者さんに接する職員同士が「顔の見える関係」を構築する貴重な機会となりました。より良いご支援につながるよう、今後も協働企画を進めてまいります。

